



第40回岩手大学 COEフォーラム

岩手大学21世紀COEプログラム「熱 - 生命システム相関学拠点創成」では、関連分野において国内外で活発に研究をされている方をお招きしてフォーラム（セミナー）を開催しています。今回は、東京医科歯科大学大学院の福岡豊先生をお招きし、大量に蓄積されているDNAマイクロアレイデータを目的を定めて解析する方法について、先生の研究室で行われていることを例にして、興味深いお話をさせていただきます。

お忙しいとは思いますが、万障繰り合わせの上、ぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。

第40回担当・工学部福祉システム工学科
新貝 柳蔵 (shingai@iwate-u.ac.jp)

日時：2006年12月1日（金）17:00～18:30

場所：岩手大学農学部2番教室

福岡 豊 氏

東京医科歯科大学大学院疾患生命科学部
生命システムモデリング分野

染色体上の遺伝子位置を考慮した 遺伝子発現データの解析

DNAマイクロアレイ等の技術の発展により、大規模な遺伝子発現データが蓄積されている。我々の研究グループでは、さまざまな観点から、このようなデータを解析し、発現メカニズムに関する研究を行っている。特に、染色体上の遺伝子位置を考慮した解析を行っている。これまでにヒト、マウス、ラット、ショウジョウバエ、線虫、酵母の6種の真核生物について、共発現と遺伝子間距離の関係を調べ、どの生物種においても染色体上での距離が近い遺伝子ペアの共発現率が高いことを示した。また、線虫の生殖細胞では、non-coding RNAの一種であるmicroRNA (miRNA) 近傍の遺伝子の発現量が低くなっていること、および、それらの発現量の低い遺伝子の多くはmiRNAのシードと相補な配列を含んでいることを示した。